

1. 概要

- 国土: 約24万km²(日本の本州の面積に相当)
 - 森林面積は約16万1千平方km²で、国土の約70%を占めている
- 人口: 約580万人

2. 特徴

• 地理・気候

- ラオスの気候は雨期と乾期に分かれており、5-10月の雨期の間に80%が、11-4月の乾期に20%が降水する。平均年間降水量は、北部渓谷部で年間1,300mmであり、南部の高山地帯では年間3,700mmと幅がある。4,340億m³と見込まれている。

ラオスの水関連データは十分蓄積されておらず、AQUASTATでは総水資源量3,335m³に対して、WEPAのデータでは2,700億m³である。

• 経済情勢

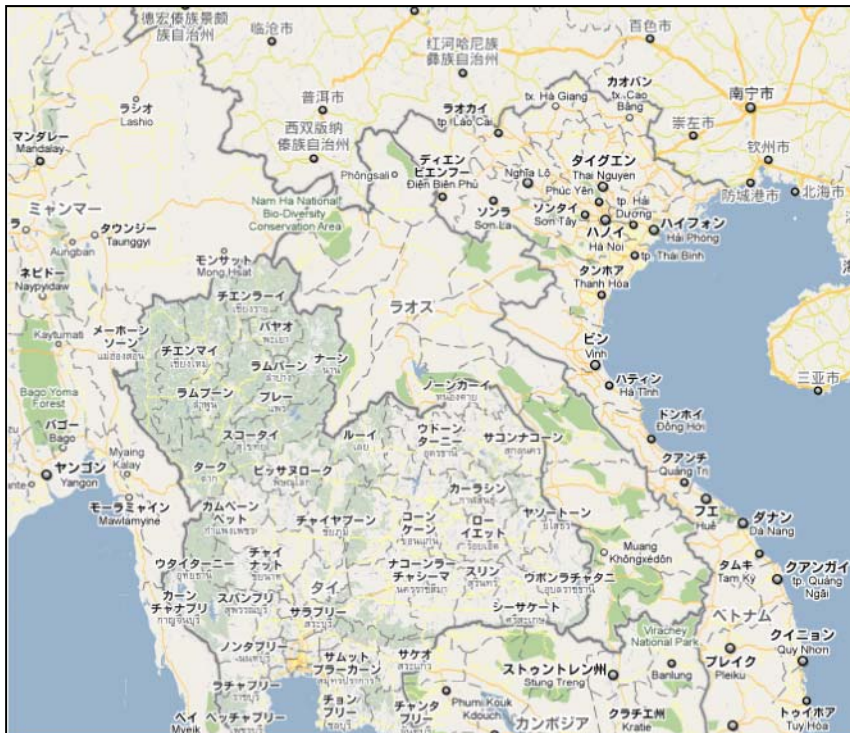
- GDPは約39億5千万米ドル
 - 労働力の7割を占める農業が40.9%で最も多く、工業(33.1%)、サービス業(26.0%)と続いている

• 水資源管理制度

- 公共衛生省
 - 2003年、ラオス都市部における飲料水質基準及び水資源の検査基準に関する令を発行した
 - 1994年、産業・手工芸品省は産業排水規則を発行した
 - 2001年、国家環境健康・水供給センター、公共衛生省(MOH)は水質ガイドラインの基本的知識を発行
- 1998年5月、科学技術及び環境組織は排水モニタリング・管理の規則を発行した

• 流域管理

- メコン流域管理
 - メコン川委員会によって、ラオスはこの重要な資源の利用について強調と管理を行っている



ラオスの水に関する主な動き

3. 上下水道事業

- ラオスでは都市部においても、安全な水道水の供給を受けることができるのは2002年現在、48.9%
- 日本は、これまでも無償資金協力や技術協力を通じ、浄水場の改善や拡張などの協力を実施し、2020年までに都市部給水率を80%まで上げるというラオスの国家計画実現を、アジア開発銀行(ADB)やフランスなどとともに支援している

4. 水に関する行政機関

- 水資源管理フレームワーク(右図)

5. 水文情報

- 年間の流入量は約270億立方メートル
 - メコン川流域全域の平均年間流量の35%
- 中央と南部のいくつかの河川では(特にSe Bang Fai, Se bang Hieng, Se Done) 乾期における流入は年間流量の10-15%であり、少ない
- ベトナムを通り南シナ海に注ぐメコン川流域外の河川は、Nam Ma, Nam Sam, Nam Neuneがある
- 平均年間降水量は、北部渓谷部で年間1,300mmであり、南部の高山地帯では年間3,700mmと幅がある
- 4340億立方mである年間の降水量の半分が流出すると見られている
- 都市部におけるメコン川支流は全低メコン川流域の35%であり、年間の国家再生可能淡水量は2700億立方メートル
- 現在の水需要は259 m³/一人
- 水の使用は農業が82%を占め、産業が10%、家庭用が8%である
- 2700億立方mの水が利用可能であり57億が使用されている
- 加えて水力発電で水が使用されており、年間23,000メガワットの電力を産出できる潜在能力を持つが、現在その能力の5%しか活用されていない
- 豊富な水供給は、水輸送、産業開発、水供給に関する良好な状態を提供している
- 都市人口の60%、農村人口の50%が清水にアクセスできる

6. 水資源管理に関する取組

- 水力発電による売電
 - 経済発展を加速するために水力発電能力をさらに高めて、輸出しようとしている
 - メコン川主流及び支流には膨大な発電能力がある
 - ラオスにおけるメコン水路の潜在発電能力は約18,000MWであり、年間には110,000GWhのエネルギーを供給できる

